

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 景気ウォッチャー調査(2008年5月)
～DIは再び悪化～

発表日 2008年6月9日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL: 03-5221-4528

原数値	景気の現状判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の現状判断(水準)			
	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連
07年 6	46.0	45.1	46.2	51.2	48.4	47.9	48.6	50.9	43.9	41.9	46.3	52.0
7	44.7	42.8	47.4	51.2	46.7	46.0	46.3	52.0	41.5	38.4	45.7	52.0
8	44.1	43.7	43.1	48.3	46.5	46.1	46.3	49.7	42.1	40.7	43.3	49.1
9	42.9	41.7	43.5	48.8	46.0	45.8	44.9	49.6	40.2	37.8	43.5	49.1
10	41.5	41.3	41.0	43.8	43.1	42.8	42.1	46.6	39.8	37.5	43.4	47.4
11	38.8	38.4	38.8	41.9	38.8	38.4	37.9	43.1	38.4	36.8	40.6	44.4
12	36.6	36.5	36.5	37.5	37.0	36.4	37.5	39.7	36.4	35.1	38.6	39.7
08年 1	31.8	31.5	31.7	34.1	35.8	35.5	36.1	37.5	31.5	30.3	32.7	37.1
2	33.6	33.1	34.4	35.0	39.5	39.6	38.6	40.4	31.5	30.0	33.5	37.0
3	36.9	37.4	36.0	35.5	38.2	38.8	36.1	39.0	34.9	34.8	34.8	36.0
4	35.5	35.6	35.9	33.6	36.1	36.3	36.4	34.4	33.0	32.4	34.5	34.3
5	32.1	32.0	32.6	31.9	35.1	35.6	33.3	35.2	29.6	28.7	31.0	32.1

前年差

07年 6	▲ 3.1	▲ 2.2	▲ 3.9	▲ 7.0	▲ 3.4	▲ 3.4	▲ 2.1	▲ 6.5	▲ 2.4	▲ 1.6	▲ 2.4	▲ 7.3
7	▲ 3.7	▲ 3.7	▲ 2.7	▲ 6.0	▲ 3.1	▲ 3.0	▲ 2.5	▲ 5.0	▲ 3.7	▲ 3.9	▲ 2.4	▲ 5.8
8	▲ 6.1	▲ 5.4	▲ 6.0	▲ 11.5	▲ 5.0	▲ 4.9	▲ 3.6	▲ 8.7	▲ 5.2	▲ 4.6	▲ 4.3	▲ 10.3
9	▲ 8.1	▲ 7.5	▲ 7.7	▲ 12.4	▲ 6.8	▲ 6.7	▲ 6.3	▲ 8.4	▲ 7.4	▲ 7.0	▲ 6.4	▲ 11.8
10	▲ 9.3	▲ 7.8	▲ 10.2	▲ 16.8	▲ 9.4	▲ 9.1	▲ 9.2	▲ 12.7	▲ 8.0	▲ 7.4	▲ 7.0	▲ 13.8
11	▲ 10.1	▲ 9.1	▲ 10.8	▲ 14.1	▲ 10.9	▲ 10.9	▲ 10.2	▲ 13.1	▲ 8.0	▲ 6.5	▲ 9.1	▲ 14.6
12	▲ 12.3	▲ 11.1	▲ 13.7	▲ 17.0	▲ 11.9	▲ 11.5	▲ 12.3	▲ 13.6	▲ 10.0	▲ 8.6	▲ 11.5	▲ 16.3
08年 1	▲ 15.4	▲ 14.2	▲ 15.6	▲ 22.2	▲ 15.1	▲ 15.1	▲ 13.7	▲ 17.6	▲ 12.9	▲ 11.0	▲ 14.4	▲ 21.2
2	▲ 15.6	▲ 14.8	▲ 15.4	▲ 20.9	▲ 12.6	▲ 12.7	▲ 11.0	▲ 15.5	▲ 15.3	▲ 14.1	▲ 16.3	▲ 20.4
3	▲ 13.9	▲ 12.5	▲ 14.9	▲ 20.8	▲ 13.1	▲ 12.8	▲ 11.8	▲ 17.6	▲ 12.9	▲ 10.4	▲ 15.3	▲ 23.2
4	▲ 14.2	▲ 12.6	▲ 14.5	▲ 23.5	▲ 15.8	▲ 15.1	▲ 14.3	▲ 22.8	▲ 13.8	▲ 11.7	▲ 15.2	▲ 23.6
5	▲ 14.7	▲ 14.4	▲ 13.3	▲ 18.8	▲ 14.9	▲ 14.4	▲ 14.4	▲ 19.8	▲ 14.4	▲ 13.6	▲ 13.7	▲ 21.3

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

季節調整値	景気の現状判断(方向性)							
	DI				前月差			
		家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連		家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連
07年 6	46.2	45.2	46.7	52.0	-0.6	-0.8	-0.1	-0.1
7	45.3	43.8	46.6	50.9	-0.9	-1.3	-0.1	-1.1
8	44.1	43.5	43.8	47.9	-1.2	-0.3	-2.8	-3.0
9	42.8	42.1	43.1	46.6	-1.2	-1.4	-0.7	-1.3
10	41.8	42.4	41.2	43.2	-1.0	0.3	-1.9	-3.4
11	39.5	39.1	39.2	42.5	-2.4	-3.3	-1.9	-0.7
12	37.5	37.0	36.7	39.0	-1.9	-2.1	-2.6	-3.5
08年 1	33.1	32.8	34.0	35.9	-4.4	-4.3	-2.7	-3.1
2	33.9	33.5	34.3	35.0	0.8	0.8	0.3	-0.9
3	34.5	34.6	34.1	34.2	0.6	1.1	-0.2	-0.8
4	33.9	33.9	34.3	32.4	-0.6	-0.7	0.2	-1.8
5	32.2	31.8	33.4	32.8	-1.7	-2.1	-0.9	0.4

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」より第一生命経済研究所試算

○ D I は再び悪化

5月の景気ウォッチャー調査は、現状判断D I（方向性）が前月差▲3.4ポイントと、比較的大きな悪化となった。季節調整をかけた場合には同▲1.7ポイント（第一生命経済研究所試算）となり、原数値ほどの悪化幅ではなくなるが、弱い数字であることには変わらない。なお、先行き判断D Iも原系列で同▲1.0ポイント、季節調整値で同▲0.4ポイントと悪化している。

現状判断D Iは、2月、3月に2ヵ月連続で小幅改善するなど明るい兆しも若干出始めていたが、3、4月には再び悪化してしまった。落ち込みのペースは07年後半と比べてさすがに緩やかになっているが、未だ下げ止まりとは言えない状況である。D Iの水準も低く、家計・企業の景況感はかなり弱いと言えるだろう。

現状判断の内訳（季節調整値）は、家計動向関連が31.8（4月33.9）、企業動向関連が33.4（4月34.3）、雇用関連が32.8（4月32.4）だった。特に家計動向関連の悪化が目立っている。

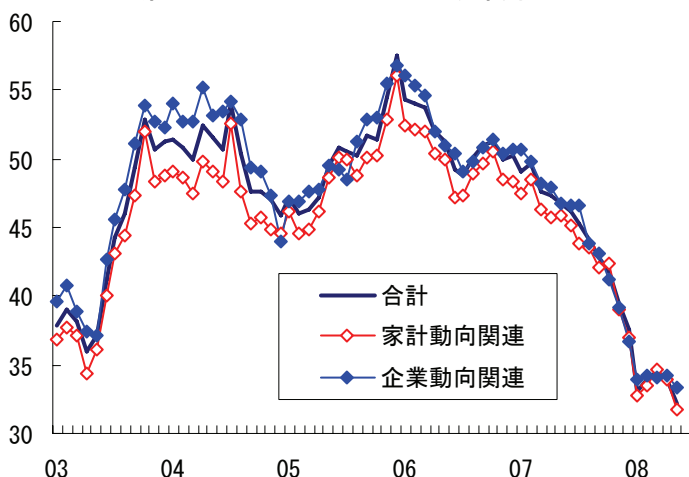
○ 生活防衛色の強まりから、家計動向関連が悪化

ウォッチャーのコメントで依然として目立つのは、原材料価格の高騰と食料品高である。企業部門では価格転嫁が進まないなかでの収益圧迫を訴える声が多く、家計部門では生活必需品値上げに対応した買い控えの広がりを指摘する声が多い。

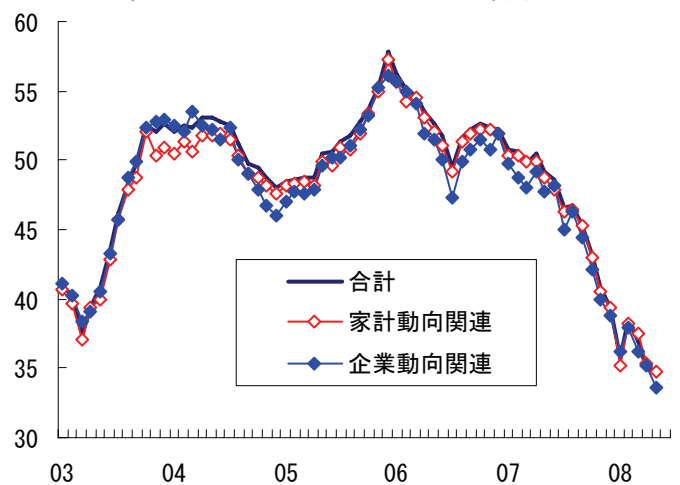
家計部門を業態別（季節調整値）にみると、コンビニエンスストアが改善したのが目立つ程度で、百貨店やスーパー、一般小売店などは軒並み大きく悪化した。コンビニの改善については、タスガ導入に伴ってコンビニでのたばこ購入が増えたという特殊要因によるものであり、それを除けば5月の家計動向関連は総崩れといって良い。食料品価格の上昇幅がこのところ早いペースで拡大していることから、支出を抑制する家計が増え始めている様子が窺える。また、ゴールデンウィーク明け以降の天候不順の影響で衣料品が伸び悩んだことも影響したようだ。ウォッチャーのコメントにも、「毎月のように発表される各種生活必需品の値上げの影響は非常に大きい」「4月から潮目が変わった」「出費した後は必ず消費を抑えるという堅実さがある」「来店しても、ただ見て回っている感じの客が多い」など、生活防衛意識の強まりを示すものが多い。

景気ウォッチャー調査から判断すれば、5月の個人消費にはあまり期待できないということになる。個人消費は1-3月期に高い伸びを示すなど、これまで比較的健闘してきたが、4月以降、弱めの動きが目立っている。仮に5月の個人消費も冴えない結果に終われば、4-6月期のGDPベース個人消費は前期比マイナスに転じる可能性が強まるだろう。消費以外の需要項目も4月は弱めであり、4-6月期のGDPは、高成長だった1-3月期から一転してマイナス成長になるリスクが高まりつつある。

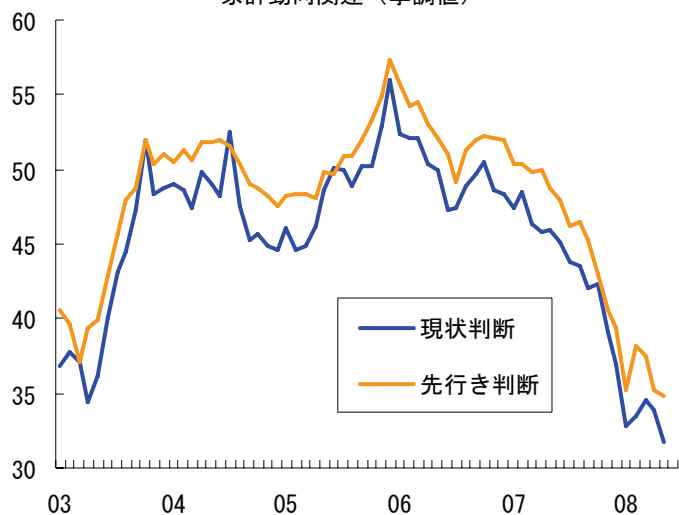
景気の現状判断D I（方向性、季調値）



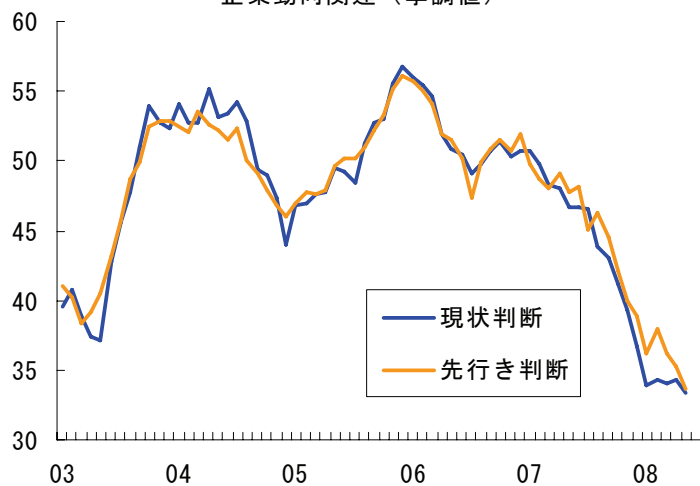
景気の先行き判断D I（方向性、季調値）



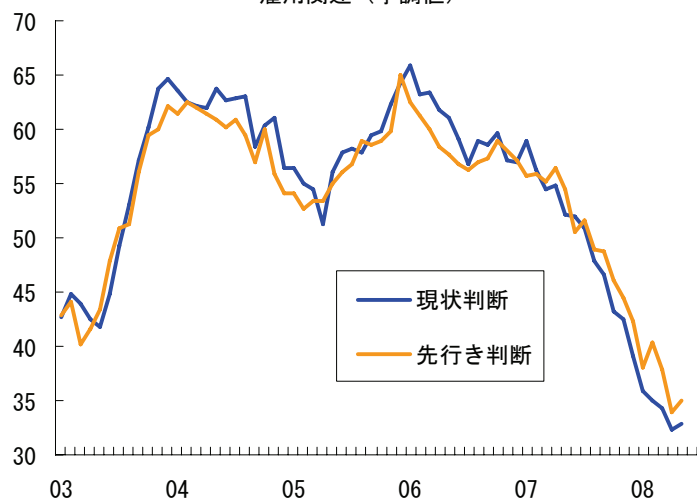
家計動向関連（季調値）



企業動向関連（季調値）



雇用関連（季調値）



住宅関連（季調値）

